

7 ① **Similar to language differences, each culture has its own way [to non-verbally express social messages such as “Let’s be friends,” “I’m sorry,” and “Thank you.”**

O'

「彼の考えは私の考えに似ている。」

- **be similar to ~** 「～に似ている」 ← similar は(形) 例：His idea is similar to mine.
- さて、similar の前に何か省略されているのに気が付いたかな。これはここで理解すれば OK です。省略されているのは being。分詞構文が使われているんだね。元の文は、(Being) similar to language differences, each culture has its own way... です。

《復習しよう！》 分詞構文-----

分詞といえば、『**形容詞**』でしたね。a **sleeping** dog (現在分詞) とか a **broken** door (過去分詞) とかね。名詞を修飾したり、C の位置に来るんだったね。(怪しい人はチャート p.222~)

でも、完全文にくっついて、Doing [p.p.], SV. や SV, doing[p.p.] の形で使われると、主節 (SV) を修飾する『副詞』の働きをします。これを分詞構文と言いました。

分詞構文は簡単！まずは、「<接続詞+S'V'> (副詞節) を短くした」と考えよう！！

例えば、< **When I looked up** >, **I saw a lot of stars in the sky** . という文。

↓ ↓ 分詞構文 主節

①× ②× **Looking up, I saw a lot of stars in the sky.**

- ① **接続詞 (つなぎ役)** がなくても、「見上げた」「星を見た」という2文の意味が分かれば→「見上げた時星を見た」と、「時」という訳を補えるので、**接続詞 when を消します。**
- ② 2文は**主語**が一緒なので、**主語 (I) を消します。**(違う場合は残します)
- ③ **接続詞 (①)** と **主語 (②)** を消して短くしたということが分かるように、時制が同じであれば動詞を現在分詞の形(doing)にします。(時制のズレは having p.p.)

分詞構文の作り方

- ① 接続詞を省略
- ② 主語を省略
- ③ 動詞を現在分詞にする

練習 分詞構文の文を見たら、この逆を考えよう！①主語を補う②時制を確認③接続詞を補い訳す。

1. **Feeling cold, he put on his coat.**

分詞構文 S V (主節)

分詞構文だ！まずは主語を補おう。「誰が」寒く感じた？⇒主節の S と同じだから「彼が」

次に時制も考えておこう！feeling cold はいつのこと？⇒doing の形なら主節(put)と同時に、今回は過去

最後に接続詞を補おう。「彼は寒く感じた」「彼はコートを着た」どう2文をつなぐ？

⇒「寒く感じたので (理由)、彼はコートを着た」= **Because he felt cold, he put on his coat.**



2. **She took a key out of her bag, opening the door.**

S V (主節) 分詞構文

分詞構文だ！まずは主語を補おう。「誰が」ドアを開けた？⇒主節の S と同じだから「彼女が」

次に時制も考えておこう！opening the door はいつのこと？⇒doing の形なら主節(took)と同時に、今回は過去

最後に接続詞を補おう。「彼女はカギをカバンから取り出した」「ドアを開けた」どう2文をつなぐ？

⇒「彼女はカバンからカギを取り出して (連続)、ドアを開けた」= **She took a key out of her bag and opened the door.**



※ 2文のつなぎ方は自然になるように訳そう。「～しながら」というつなぎ方もよく使われます。

文を短くできるので、書き言葉で使われます (堅い表現)。

現在分詞(doing)の部分が be 動詞、つまり being の時は、省略されることが多いので要注意！

今回のように、**形容詞, SV.** なんてへんてこな形の文を見たら Being が省略されていると思おう！

さあ、戻りましょう！

Being similar to language differences, each culture has its own way...

分詞構文

S V (主節)

分詞構文だ！まずは主語を補おう。「何が」言語の違いと似ているの？⇒主節のSと同じだから「each culture が」次に時制も考えておこう！Being similar...はいつのこと？⇒doingの形なら主節(has)と同時、今回は現在最後に接続詞を補おう。「それぞれの文化が言語の違いと似ている」「それぞれの文化は独自の方法を持っている」どう2文をつなぐ？⇒全文を訳してみたらこのBeing similar~の訳を考えてみてね！

答え：「それぞれの文化は言語の違いと似ているように、~する独自の方法を持っている」

ここでは、「言語の違いと同様に」と訳すときれいな訳になります。

ここまで理解できたら、Similar to~, SVは「~と同様にSV」という意味になることが分かったね。

• each (形)「それぞれの」←注意しなければならないことは？⇒後ろに来る名詞は可算名詞の単数形、単数扱い。動詞が has になっていることにチェック！後ろの its own way の its も each culture を受けている。単数扱いだから their ではなく its なんだね。

• one's + own + 名詞 「~自身の名詞」この own は形容詞で「自身の」の意味。

例：my own effort 「私自身の努力」 his own book 「彼自身の本」

• to non-verbally express social messages ...

に

この to は何？⇒もちろん不定詞の to です。to と do の間に 副詞の non-verbally が入り込んで全体像が見えにくくなっています。副詞はおまけ M でしたね。副詞を隠して読んでみると全体像が見えてきますね^^ 今回の不定詞は形容詞的用法で、its own way にかかっています。

• non-verbal (形) 意味 ( ) non-verbal(形)+ly で、副詞だね。

• express O 意味 ( ) social 意味 ( ) } ⇒怪しい人は part1~3 復習

• A such as B 意味 ( ) }

“Let’s be friends,” “I’m sorry,” and “Thank you.”が B の部分。B は具体例だった。何の具体例？

② (For example), (in Vietnam), one (of the ways [to express obedience]) is [to stand up and

M

M

S

M

M

V

C

V'1

stare (at the speaker) (with your arms crossed)].

V'2

- for example 「例えば」具体例を表すものは他に何があつた？
- one of ~ この表現を使う際に注意しなければならないことは？
- obedience(名)「服従」←動詞は obey O 「O に従う」
- and がつなぐものは？stand up と stare at ~ だね。同じ品詞を繋いでいます。
- stare at ~ 意味 ( )

• with your arms crossed ←この with は何の with? ⇒付帯状況の with

覚えよう with O C 意味「O が C の状態で」with の後に 名詞+名詞とイコールになるものが来たら付帯状況！

C (イコール) の位置に来るもの：①,④形容詞、②副詞、③前置詞句

例：① with your mouth full 「口がいっぱい状態で」 ② with the TV on 「テレビがついている状態で」

with O C ⇒「口をいっぱいにして」 with O C

③ with his hands in his pockets 「手をポケットに入れた状態で」

with O C

④ with his dog following him 「彼の犬が彼の後を追っている状態で」

with O C

上で確認しましたが、分詞は『形容詞』でしたね。ということで、with O C の C の位置に分詞を持

ってくることもできます。④例文は following が **現在分詞**、「彼の犬が後を追う」という能動『～する』の関係の時は現在分詞 doing でした。今回の crossed は **過去分詞**。「腕は組まれる」、「～される」という受動の意味を表すときは過去分詞 p.p. が使われましたね。

「君の腕が組まれている状態で」→「腕を組みながら」くらいで訳して OK です。

③ (In Japan), on the other hand, you would lower your head, look down, and

M M S V1 O V2

hold your hands (in front of you).

V3 O M

- on the other hand 意味 ( ) ←対比を表します。ベトナムに対して日本だね。
- would do 復習！助動詞の過去形は？① ( ) と② ( ) を表す。  
ここも、控えめな推量「～するだろう」の意味だね。
- lower O 「Oを下げる」、look down 「下を向く」←down は方向を表す副詞
- hold one's hand hold O は、「Oをしっかりと持っている、つかんでいる」の意味、ここでは「You (主語) が your hands をしっかりとつかんでいる」だから、どういうこと？  
☞「自分の前で自分の手を握る」くらいの訳で OK!
- and がつなぐものは？：同じもの (品詞)、今回は動詞を3つ繋いでいます。
- in front of ~ 「～の前で」⇔ behind ~ 「～の後ろで」

～ベトナムと日本の、言葉を使わずに服従を表す方法の違いはつかめたかな？～



②、③の文は①の文の具体例になっているね◎

8 ④ [Understanding the importance (of non-verbal language)] does not mean

S [ v' o' M ] V

<that [learning a foreign language] is less important>.

O S' [ v'' o'' ] V' C'

- understanding と learning は分詞？動名詞？理由は？

☞動名詞:かたまり [ ]の品詞が名詞だから。

動名詞「～すること」は 動詞が名詞化したものだね。名詞は S,O,C,前置詞の目的語 に来る。今回はどちらも主語の位置にきているから動名詞だね。分詞は形容詞！

- importance (名)「重要性」⇔important(形) difference(名)⇔different(形)、intelligence(名)⇔intelligent(形)
- non-verbal language 意味 ( )
- 復習しよう！～比較級～

肯定の比較級「より～だ」☞ (形容詞・副詞の) 原級 er か more + (長い形容詞・副詞の) 原級

否定の比較級「より～ない」☞ less + (形容詞・副詞の) 原級

ここだけ訳してみよう！... learning a foreign language is less important

☞「外国語を学ぶことは（～より）重要ではない...」

文中に比較級が出てきて、**than** 以下が省略されているときは「何よりも」かを考えよう！ここは少し難しかったね。（than understanding the importance of non-verbal language）が省略されていました。

④全文訳：「非音声言語の重要性を理解することは、外国語を学ぶことが（非音声言語の重要性を理解することよりも）重要ではないということの意味しているわけではない。」

⑤(On the contrary), <if we realize the importance and meaning (of non-verbal language),

**we will be able to understand and deal with those messages better.**

・ **on the contrary** 「それどころか、逆に」 ☞逆の事実や話し手の意見を示します。  
・ **realize** O 「①Oに気づく ②Oを実現する」  
・ 1つ目の **and** が繋ぐものは？☞**importance** と **meaning** 同じ品詞をつなぐ。今回は名詞。A and BはBの形に注目して、Aを探そう！今回の **the** や **of non-verbal language** は両方の名詞にかかっています。☞「非音声言語の重要性や意味」

・ 2つ目の **and** が繋ぐものは？☞**understand** と **deal with** 同じ品詞をつなぐ。今回は動詞。**will be able to** がどちらにもかかっている。**understand**Oは「Oを理解する」他動詞、**deal with**～は「～を取り扱う」で、かたまりで他動詞の働きをしています。そして、それぞれの目的語が **those messages**になるのですね。余裕がある人は同義語 **cope with**～「～に対処する」も覚える。

・ **those messages** とは何のメッセージ？☞7①の文の **social messages**  
～④、⑤の文の論理展開はつかめたか。～

「非音声言語の理解があれば言語の理解は不要」なのではなく、「非音声言語の理解が言語の理解を助けている」☞どちらも必要！という論理展開になっています。

⑥We may also understand the messages <we are sending out <when we are

**interacting (with people (from different cultures)).>>**

- ・ the messages <( ) we are sending out...> 空所に省略されているものは？  
☞関係代名詞 **which** もしくは **that**、目的格なので省略されています。
- ・ **send** O out / **send** out O 「Oを発信する」、**send** は「Oを送る」、**out** は「外へ」という副詞。
- ・ **interact with** ～「～と交流する」
- ・ **also** は「～も」という意味ですが、追加を表す表現です。

例:He joined the activity. I also joined it. 彼に加えて、私もその活動に参加したということだね。

～今回の文は『何』に『何』を追加しているか考えてみよう～

⑤の文で、非音声言語の重要性や意味に気がつけば、相手が発するメッセージを理解しやすくなると言っていました。⑥では、私たちが異なる文化を持つ人々に発しているメッセージも理解できるかも、つまり、「非音声言語の重要性や意味を知っていれば、自分が発するメッセージを相手によりよく伝えることができるんじゃないか」と筆者は考えているのですね^^



☞これはどういうメッセージ？

①「おいでおいで～、お小遣いあげるよ。」

A. 手の甲を上に向けて手招きするしぐさは、日本では①「おいで」の意味だけど、西洋では②「あっちいけ」と取られる可能性大。そのことを知っていると、上手く「おいで」というメッセージが伝えられるかもね☺

②「あっちへおいき、シツシツ」